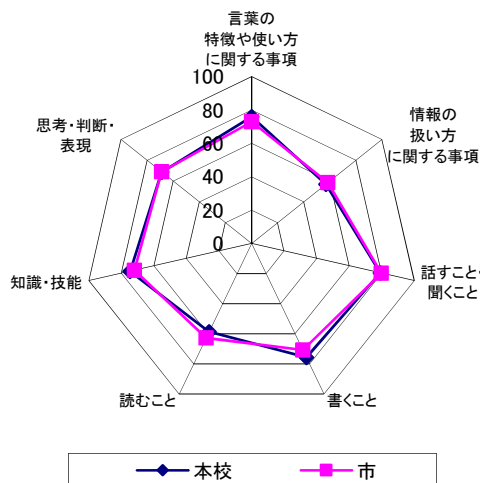


# 宇都宮市立雀宮中央小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	76.0	73.0	75.5
	情報の扱い方に関する事項	57.0	58.5	59.0
	話すこと・聞くこと	79.1	79.8	75.9
	書くこと	75.6	70.7	71.7
	読むこと	58.6	62.8	62.5
観点別	知識・技能	74.6	72.0	74.4
	思考・判断・表現	68.8	69.0	68.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>領域の正答率は市と同程度である。</li> <li>○三字の熟語の構成について問う問題では、平均正答率が市を10ポイント以上上回っており、習熟が図れていることが分かる。</li> <li>●漢字の読みでは、市の平均と同程度であるが、書きでは漢字によって大きな差が出てしまい、既習事項が身に付いていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●漢字の読み書きについては、文脈に即して適切に読んだり書いたりすることが重要である。児童が特に苦手としている漢字や、日常生活で用いる機会が少ない漢字については、辞書で漢字の成り立ちや意味を調べさせるなど、漢字自体の意味を考えながら正しく書くことができるような指導を行っていく。</li> </ul>
情報の扱い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>領域の正答率は市と同程度である。</li> <li>○情報と情報の関係について理解し、目的に応じて文章を簡単にまとめることについて、市の平均と同程度である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教科にかかわらず、目的に応じた文章を書く機会が多いので、例文を示し参考にさせたり、「型」にあてはめさせたりするなどして、簡単に文章をまとめる力を身に付けさせていく。</li> </ul>
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>領域の正答率は市と同程度である。</li> <li>○計画的に話し合い、考えをまとめるための司会者の工夫については、市の平均より1.8ポイント高い。</li> <li>●互いの立場を明確にしながらか計画的に話し合い、考えをまとめることについては、市の平均より3.4ポイント低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日頃の授業で、話し手の主張・理由・根拠など、話の中心となることばをメモに取ったり、聞き取った話の内容に対して、共通点や相違点を踏まえて自分の考えをまとめたりする場面を繰り返し設定し、聞く力を高めていく。</li> </ul>
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>領域の正答率は市より5ポイント近く高い。</li> <li>○どの問題も、市より高くなっている。国語の学習の中で、条件に合わせて文章を書く機会があり、長さや段落の構成、理由を明確にして自分の考えを表すことなど、条件に合った文章の記述が定着しつつあると考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●文章を書く際には、書く際の基本的なきまりを確認したり、作文を視写する活動を取り入れたたりして、段落の型を理解させる必要がある。また、文章を書く際には、内容と構成を考える構想メモを作ったり、記述した文章を読み返し、指定された条件と合うように推敲したりするなど、基本的な構成に沿ってまとまりのある文章を書く技能を身に付けさせたい。</li> </ul>
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>領域の正答率は市より4ポイント程度低かった。</li> <li>○登場人物の様子について、描写を基に捉える問題において、市より3ポイント程上回った。</li> <li>●物語文の全体像を具体的に想像する、また説明文の論の進め方を的確にとらえる問題においては、市より7～10ポイント下回り、文章全体を大きく読み取る力に課題が見られることが分かる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学習の導入時に、物語や説明文の大体を捉える時間を設ける。感想や疑問に思ったことなどを交流させ、文章への関心を持たせることで、細かな部分を読み取る意欲へとつなげる。また、学校や家庭で音読に取り組ませることで、長い文章の読み取りの抵抗をなくしていくことも大切である。</li> </ul>

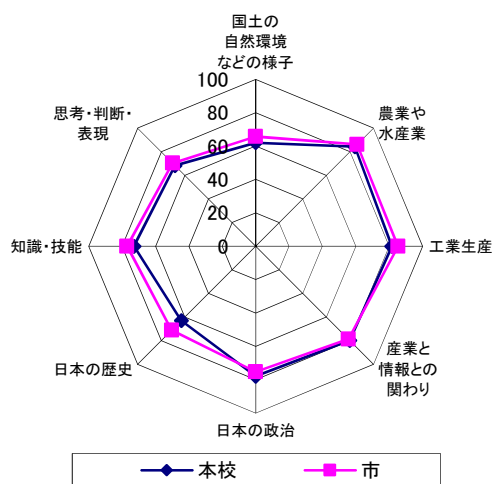
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

# 宇都宮市立雀宮中央小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	62.0	65.7	67.0
	農業や水産業	84.2	86.1	77.5
	工業生産	81.6	85.4	76.7
	産業と情報との関わり	79.7	78.6	69.6
	日本の政治	77.8	75.2	65.8
	日本の歴史	63.0	71.1	69.1
観点別	知識・技能	72.9	77.0	72.8
	思考・判断・表現	68.2	70.3	64.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

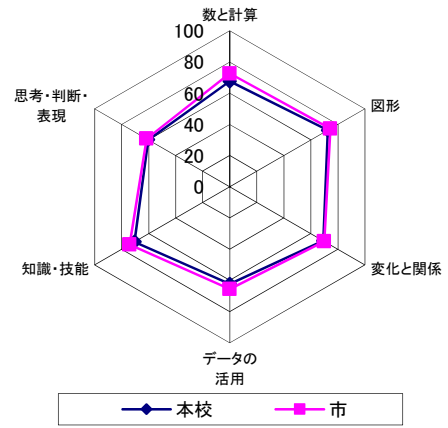
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域の正答率は、62.0%で市と同程度である。</li> <li>●日本の生活と環境についての問題の正答率は、70.3%で市と比べて8.4ポイント低い。</li> <li>●森林を守る働きについての問題の正答率は、53.2%で市と比べて13.9ポイント低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地図やデジタル教材を活用して、日本の環境の特徴について視覚的にとらえられるようにする。</li> <li>・学習したことをノートにまとめる際に、まとめる内容を明確に示しておく。</li> <li>・理解を深めるためにまとめの活動で分かったことの発表をする活動を取り入れる。</li> </ul>
農業や水産業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域の正答率は、84.2%で市と同程度である。他の領域と比べると正答率が高い。</li> <li>○問題の内容別正答率は、84.2%で市と同程度である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業において、教科書や資料集のデータや資料を読み取り、分かったことや気付いたことを伝え合う時間を積極的に取り入れて、資料を読み取る基本的な技能の定着を図る。</li> </ul>
工業生産	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域の正答率は、81.6%で市と同程度である。</li> <li>●工業製品の種類についての問題の正答率は、86.1%で、市と比べると6.2ポイント低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工場の見学や身近な人へのインタビューなどの実体験や図書・インターネットを活用した調べ学習を行うことで、学習に意欲的に取り組む機会を取り入れていく。また、集めた情報を取捨選択し、他者に伝える場を設け、知識の定着を図る。</li> </ul>
産業と情報との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域の正答率は、79.7%で市と同程度である。</li> <li>○問題の内容別正答率は、79.7%で市と同程度である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書・インターネットを活用した調べ学習を行うことで、学習に意欲的に取り組む機会を取り入れていく。</li> <li>・インターネットで調べ学習を行う際、事前に情報モラルについて伝える機会を設け、情報ネットワークを活用する際に正しい受け取り方について定着を図る。</li> </ul>
日本の政治	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域の正答率は、77.8%で市と同程度である。</li> <li>○日本国憲法についての問題の正答率は、80.4%で市と同程度である。</li> <li>○日本の政治についての問題の正答率は、75.3%で市と同程度である。</li> <li>○裁判の仕組みについての問題の正答率は、84.8%で市と比べると6.2ポイント高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三権分立など構造が複雑なものに関しては、図に表してまとめるなどし、知識の定着を図る。</li> <li>・図書やデジタル教科書、映像資料を通して視覚的に学習する機会を積極的に取り入れていく。</li> </ul>
日本の歴史	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域の正答率は、63.0%で市と比べると8.1ポイント低い。</li> <li>●縄文時代～平安時代についての問題の正答率は、71.2%で市と比べると5.8ポイント低い。</li> <li>●鎌倉時代から室町時代についての問題の正答率は、54.7%で市と比べると10.5ポイント低い。</li> <li>●弥生時代の人々の暮らしについての問題の正答率は59.5%で市と比べると13.7ポイント低い。</li> <li>●平清盛や源頼朝についての問題の正答率は49.4%で市と比べると14.1ポイント低い。</li> <li>●室町文化の特徴について捉え、表現する問題の正答率は39.2%で市と比べると18.2ポイント低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的事実の意味を正しく理解させるために、その事実について自分の言葉で表現するなどの活動を行っていく。</li> <li>・学習した歴史人物について自分なりにまとめる歴史人物カード作りを行い、理解を深める。</li> <li>・年表作成を取り入れて、時代背景を捉えながら重要事項を抑えられるようにする。</li> <li>・一つの出来事や人物を追究する際に、様々な人物・出来事が関わっていることを理解できるようにする。その手立てとして、友達と共に調べ学習や新聞作成、一問一答等授業展開を工夫して意欲的・効率的に学習できるようにする。</li> </ul>

# 宇都宮市立雀宮中央小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	67.7	72.6	71.6
	図形	72.6	74.4	72.0
	変化と関係	69.1	69.8	62.6
	データの活用	62.2	65.5	59.1
観点別	知識・技能	70.5	74.1	68.9
	思考・判断・表現	60.4	61.6	63.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

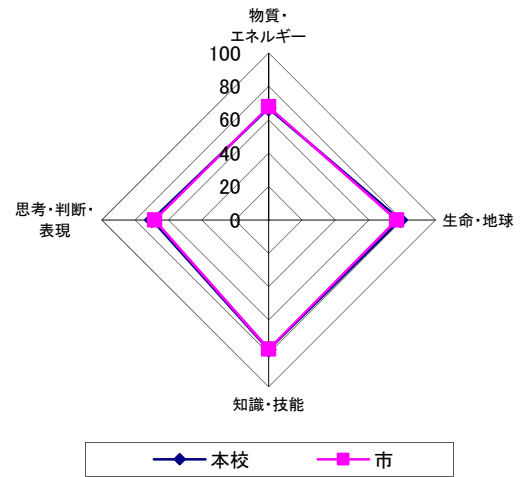
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域の正答率は、市と比べて67.7%で市と同程度であるが、全体的に正答率が低く、課題が見られる領域である。</li> <li>●分数÷分数(約分あり)の計算問題の正答率は、79.7%で市と比べると7.7ポイント低く、2つの文字を使って表された式について、一方の文字の値から他方の文字の値を求める問題の正答率は、45.6%と市の平均と比べると16.9ポイント低くなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小数や分数の計算については、ドリルやプリント学習を通じた繰り返しの練習を継続して、基本的な計算技能を高めていく。</li> <li>・文字を使って表された式について、図を用いて考えたり、簡単な数に置き換えて考えたりするなど、値を求めるための手順を丁寧に確認していくことで、解き方について理解することができるようにする。</li> </ul>
図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域の正答率は、市と比べて72.6%で市と同程度である。正答率は7割を超えており、他の領域と比べると高い傾向にある。</li> <li>○線対称な図形について、対象の軸が何本あるかを求める問題の正答率は、83.5%で市と比べて5.1ポイント高くなっている。</li> <li>●点対称な図形について、対応する辺を選ぶ問題の正答率は68.4%で市と比べると13.3ポイント低くなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正多角形や角柱・円柱など、日常では出会いにくい図形について、算数教材を有効に活用して、その形や特徴を理解することができるようにする。</li> <li>・線対称・点対称な図形について、手元で操作できるような具体物を用いて、線を引いたり、折り曲げたり、回転させたりする活動を通して、その性質を理解することができるようにする。</li> </ul>
変化と関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域の正答率は、市と比べて69.1%で市と同程度である。人口密度や距離を求める基本的な計算はある程度できているが、それらを応用した文章問題に課題が見られる。</li> <li>●単位量当たりの大きさ・速さについて、兄が走る時間と弟が走る速さから、弟が走る距離を何mにすればよいかを記述で答える問題の正答率が40.5%と低く、課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の事象や具体的な問題場面から、二つの数量の関係に着目して、それらの数量について児童が「考えた」と思うような場面を設定する。</li> <li>・数量の関係についてグラフや表を用いて表したり、表や式を関連付けながら考えたりしていく活動を大切にしてい。また、ペア学習やグループ学習を通して、様々な考え方に触れることができるようにする。</li> </ul>
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域の正答率は、市と比べて62.2%で市と同程度である。</li> <li>●データの見方について、度数分布表、最頻値の問題の正答率がそれぞれ78.5%、46.8%で市と比べると6~8ポイント低くなっている。また、いろいろなグラフの読み取りについても正答率が低く、理解が十分でないと考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろなデータやグラフの読み取りについて、読み取ったことをまとめたり、データの特徴や傾向から考えたことを話し合ったりする活動を充実させる。</li> <li>・理科や社会など他教科においてもデータやグラフを読み取る活動を行うことで、それらに触れる機会を増やし、データやグラフを正しく読み取る力を育成していく。</li> </ul>

# 宇都宮市立雀宮中央小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	66.9	67.8	64.1
	生命・地球	78.8	76.7	78.3
観点別	知識・技能	77.7	77.4	78.3
	思考・判断・表現	69.9	68.3	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域の正答率は、市と比べて66.9%で市と同程度である。</li> <li>○ふりこの周期の問題の正答率は、77.2%で市と比べると5.3ポイント高くなっている。</li> <li>●ろ過の正しい操作についての問題の正答率は、41.8%で市と比べると6.2ポイント低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループの人数を可能な限り少なくしたり、回数を重ねる中で確実に全員が実験を行えるよう配慮したりすることで、個々の実験技能の向上を図る。</li> <li>・発見した学習問題に対して予想や仮説を立て、どのように実験をすればよいのか話し合いながら実験方法を考えさせることで、主体的に問題を解決することができるようにする。</li> </ul>
生命・地球	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域の正答率は、市と比べて78.8%で市と同程度である。</li> <li>○天気の変化の問題の正答率は、4問すべてにおいて市より高い正答率で、特に春ごろの天気の変わり方の問題の正答率が68.5%で市より12.2ポイント高くなっている。</li> <li>●動物のからだのつくりとはたらきについて、酸素が多い血液を問われた問題の正答率は、49.4%で市と比べると10.9ポイント低くなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習したことを自分の経験や日常生活と関連付けて考えられるような授業を展開していくことで、知識の定着に加えて、知識を活用する力を育成していく。</li> <li>・動物のからだのつくりや生物と環境のかかわりなど、実験を行うことが難しい単元では、映像資料を活用したり、図書室やパソコン室での調べ学習を充実させることで、課題を解決することができるようにする。また、人体の模式図などを用いて、血液が循環する様子を矢印で示したり、他の臓器との関係をまとめさせたりすることで、各器官が相互に関わり合っていることを理解できるようにする。</li> </ul>

## 宇都宮市立雀宮中央小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
読解力向上に向けた指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明文での読み取り方の手立てや指導法の研究による授業作り</li> <li>・読解力を付けるための語彙・文法の基礎の定着を図った朝の学習でのプリント学習</li> <li>・読書の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語の「読むこと」の領域に関して、正答率が58.6%で、市の平均よりも4.2ポイント低かった。説明文の方が、物語よりも読み取る力は若干高かった。</li> <li>・読書に関する質問では、1年96.3%、2年90.3%、3年86%、4年83.8%、5年82%、6年87.3%と、全体的に高かった。低学年の方が読書に親しむことができていた。</li> </ul>
主体的に学習に取り組む児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業のねらいを明確化し、児童に分かる「めあて」の設定と、授業の終末に理解度や自分の変容を確認する「振り返り」の時間の確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問紙の結果から、学習に進んで取り組んでいる児童は、ほとんどの学年で市よりも高かった。また、授業で習ったことを分かりやすくノートにまとめることもほとんどの学年で市よりも高かった。</li> </ul>

### ★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・学校全体で、主に説明文の授業において、めあてを精選したり、板書やワークシートを工夫したりしながら、文章を正しく読み取る力を育成するための効果的な手立てについて研究していく。また、授業の研究とともに、朝の学習の時間を使った読解力を高める学習や読書の推進などの日常的にできる読む力の育成にも取り組んでいく。
- ・各教科の実践の中で、自分の考えを書いたり、説明したり、友達と伝え合ったりする活動を意図的に設け、国語で培った力を生かせるようにする。